

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04088

研究課題名（和文）環境経営における組織成員の動機付けと組織文化に関する経験的研究

研究課題名（英文）An Empirical Study on Motivation and Organizational Culture for Sustainability Management

研究代表者

木村 麻子（KIMURA, Asako）

関西大学・商学部・教授

研究者番号：30389233

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、サステナビリティ経営を推進するにあたって内部ステークホルダーの動機付けや意思決定・行動のプロセスを明らかにすることを目的とした。その手順としてカンパニー制を採用する日本企業を考察した。分析視角としてOrganizational facadeを採用し、本社の設計したサステナビリティ理念を共有しながら、各カンパニーが異なる理解をし、意思決定や行動を行う様子を考察した。本研究では、Organizational Facadeが外部だけでなく内部の組織成員の意思決定や行動にも影響を与えること、および組織がFacadeと現実の乖離を埋めるべく長期的な努力を行うプロセスを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、日本企業のサステナビリティ配慮型製品開発のプロセスおよびサステナビリティマネジャーの役割等を明らかにしている。サステナビリティ経営が重視される現代社会において、サステナビリティ配慮型製品開発の実態やマネジャーの役割は必ずしも明確になっておらず、それらを明らかにしたところが本研究の社会的意義の1つとしてあげられる。また、サステナビリティレポートとステークホルダー間の文脈で新しいtheoretical lensとして用いられつつあるOrganizational facadeを内部マネジメントのケース研究で用い、対象範囲を拡張したところに学術的意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the motivation of internal stakeholders and their decision-making/action processes in promoting sustainability management. We have investigated the case of Japanese companies adopting the in-house company system. We adopted Organizational facade as theoretical lens and considered how each company makes different understandings and makes decisions and actions while sharing the sustainability philosophy designed by the head office. In this study, we clarified that the Organizational Facade influences the decision-making and behavior of internal organizational members as well as external ones, and the process by which organizations make long-term efforts to bridge the gap between Facade and reality.

研究分野：社会環境管理会計

キーワード：サステナビリティ CSR 社会環境管理会計

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2015年に国連がSDGs (Sustainable Development Goals) を採択して以降、サステナビリティレポートやCSRレポートを自発的に開示し、サステナビリティ経営を重視する企業が増加する傾向にある。その一方で、先行研究ではサステナビリティレポートの発行が企業パフォーマンスに影響を与えることについて否定的である(Cho et al., 2014; Cho et al., 2015)。企業は自社の事業に関する正統性を主張するためにサステナビリティレポートを通じて印象操作を行っていることさえ指摘されている(Cho et al. 2010; Cho et al. 2012; Bozolan et al. 2016)。企業が開示する情報のみで、企業のサステナビリティ経営の実態を把握することは簡単ではない。先行研究においても、外部リポーティングを中心に行われてきた社会環境会計研究は、管理会計の側面からも蓄積すべきであることが指摘されている(Bebbington and Thomson, 2013; Unerman and Chapman, 2014)。

サステナビリティ経営に関する管理会計研究は、その必要性を認識する一方で、具体的な内容については明らかになっていない。サステナビリティ経営を推進するサステナビリティマネジメントコントロールも不十分であることが多いと指摘されている(Gond et al., 2012; Journeault et al., 2016)。

これらの背景を踏まえ、日本におけるサステナビリティ経営の先進企業が何をどのように行っているかを考察し、明らかにすることに意義があると考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、サステナビリティ経営を推進するにあたって組織成員を動機付ける要因やサステナビリティ経営実行のためのサステナビリティコントロールシステムを明らかにすることにある。具体的には、日本企業においてサステナビリティ経営を推進するための組織成員の動機付けの要件を抽出し、それらを推進するための会計システムやマネジメントコントロールシステムを規範化する。企業においてサステナビリティ経営は社会からの要請である一方で、経済的利益との両立が困難であるためその推進は容易ではない。現実には、サステナビリティ経営を1980年代後半～効果的に推進して高い評価を受けている日本企業もあれば、昨今のSDGsをはじめとする社会的要請に従い、最近サステナビリティ経営に取り組み始めた日本企業もある。本研究では、サステナビリティ経営を実行する日本の先進企業の実態を考察し、組織成員の動機付けを促進するサステナビリティマネジメントコントロールの規範化を行う。

3. 研究の方法

本研究は、研究方法として日本企業を対象とするケーススタディを採用している。ケーススタディは、コンテキスト内で収集される多種多様な情報をもとに「なぜ」および「どのように」という問いに答えを与え、組織プロセス詳細な理解を促進するとされている(Yin, 2003)。事例研究はまた、サステナビリティ経営を実現するためのマネジメントコントロールシステムなど現代の具体的な現象を実際に検証する場合に推奨される方法として認識されている(Yin, 2003)。

そこで、本研究の目的であるサステナビリティ経営に資する組織成員を動機付けるためのサステナビリティマネジメントの規範化のために、日本のサステナビリティ経営先進企業を対象にケーススタディを行った。

ケーススタディを進めるにあたっては、対象企業のレポートを中心とする公表資料や文献、インタビュー調査を主体として行った。インタビュー調査を行うにあたって、事前に質問票を送付し、得られた回答に対して質問を重ねる半構造化インタビューによるデータ収集に努めた。また、調査対象企業は、環境やサステナビリティへの配慮を従来から実施した実績のある複数の企業とした。また、インタビューとしては、環境担当取締役、本社の環境マネジャーおよびスタッフなど環境を担当する方や、子会社の環境マネジャーおよびスタッフ、環境配慮型製品開発チームのメンバー、会計担当者、事業所の環境担当者など職能や階層に幅をもたせることで、多様なデータ収集を行った。

なお、研究を進めるにあたって、研究協力者としてCharle Cho教授(York University)からケースの解釈や分析視角の選択に関して支援を受けた。

4. 研究成果

(1) 環境部門のマネジャーの役割について

日本における2社の事例をもとに環境マネジャーが環境と経済の両立を行うプロセスについて論じた。北米の先行研究では、企業を環境問題に敏感な産業群と敏感でない産業群とに区分し、サステナビリティレポートやアニュアルレポートといった開示情報の分析を通じて企業群ごとに環境やサステナビリティに配慮した経営への姿勢などが異なることを明らかにしている。本研究では、より具体的に個々の企業の取り組みを明らかにするために、日本で古くからサステナビリティ経営を行う環境問題に敏感な産業群に属する企業グループを対象に考察を行った。その結果、企業グループ内で同じサステナビリティ経営理念や業績評価システムを有する子会社であっても、B2BかB2Cかといった顧客層の違いなどによって、環境配慮型製品の開発プロセスや製品開発チームの認識が異なることが明らかとなった。このようなプロセスや認識の違いを解消するために、環境マネジャーが製品開発チーム内の環境指標の運用を進め、財務指標とのバランスを取っていることを明らかにした。

なお、本研究に関しては以下の報告を行った。

Balancing between Environmental and Economic Rationality: Role of Environmental Manager(The Annual International Conference of the Centre for Social and Environmental Accounting Research (29th CSEAR UK), St Andrews University, August 2017).

The role of sustainability manager in the context of new product development (CSEAR North America conference, TED Rogers School of management, July 2018; Workshop, Innsbruck Business School, July 2018; Melco Workshop for International Journal, Kyoto University, February 2019).

(2) サステナビリティ教育について

マネジャーが組織のサステナビリティ経営理念を組織成員に浸透させるための取り組みについて明らかにした。(1)で考察した環境マネジャーが環境と経済を両立するための手法の1つとして、サステナビリティ教育を挙げた。同グループ会社では、本社の環境マネジャーが主体となってグループ子会社の環境マネジャーや環境スタッフを対象として年次の環境教育を行っている。環境教育では年間を通じたグループワークを行い、グループのサステナビリティ経営への提案を行わせている。提案は採用されることもあるほか、グループ子会社間の知見の交換やネットワークワーキングといった効果を得ている。

なお、本研究に関しては以下の報告を行った。

「サステナビリティマネジメントコントロールの構造とその運用」(2017年度日本原価計算研究会関東部会・関西部会合同部会、草津温泉ホテルヴィレッジ、2018年3月)

(3) サステナビリティ経営を推進するMCSおよび組織構造について

サステナビリティ経営を計画・推進するためのマネジメントコントロールシステムについて、本社環境部門が提示した新製品開発プロセスや業績評価システムを各子会社が制度として受容し、各子会社に適した仕組みを生成させることで円滑に運用をさせる様子を考察した。各社の背景(顧客層、製品特性、競合他社)への対応する方法として、組織としての外部ステークホルダーへのコミットメント(facade)を内部マネジメントへの外部プレッシャーとして利用し、また会計情報の分析を通じてその合理性を内部ステークホルダーに提示するようにサステナビリティマネジメントコントロールシステムを構築することを明らかにした。

なお、本研究に関しては以下の報告を行った。

The sustainability management control system on new product development: What is the role of the organizational facade? (The 9th APIRA Conference, Auckland University of Technology, July 2019; Kyoto/Bristol International Workshop for Qualitative Research, Kyoto University, August 2019).

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Asako Kimura, Hiroyuki Suzuki, Michiyasu Nakajima	4. 巻 -
2. 論文標題 The role of sustainability manager in the context of new product development	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of CSEAR North America Conference2018	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Asako Kimura, Hiroyuki Suzuki, Michiyasu Nakajima	4. 巻 -
2. 論文標題 Sustainability Management Control Systems in the Context of New Product Development: A Case Study on a Japanese Electronics Company	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of Workshop for International Journal	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 1件/うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Asako Kimura
2. 発表標題 The role of sustainability manager in the context of new product development
3. 学会等名 CSEAR North America Conference2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Asako Kimura
2. 発表標題 The role of sustainability manager in the context of new product development
3. 学会等名 Seminar at Innsbruck University（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Asako Kimura
2. 発表標題 The Role of Sustainability Manager in the Context of New Product Development
3. 学会等名 Melco Workshop for International Journal at Kyoto University
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Asako Kimura
2. 発表標題 The Role of Sustainability Manager in the Context of New (Sustainability) Product Development
3. 学会等名 Bristol and Kyoto International Workshop for qualitative research at University of Bristol (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Asako Kimura, Hiroyuki Suzuki, Michiyasu Nakajima
2. 発表標題 Sustainability Management Control Systems in the Context of New Product Development: A Case Study on a Japanese Electronics Company
3. 学会等名 Melco Workshop for International Journal at Fukuoka University
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Asako Kimura, Hiroyuki Suzuki, Michiyasu Nakajima
2. 発表標題 Balancing between Environmental and Economic Rationality: Role of Environmental Manager
3. 学会等名 The Annual International Conference of the Centre for Social and Environmental Accounting Research (29th CSEAR UK) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木村麻子・北田皓嗣
2. 発表標題 サステナビリティマネジメントコントロールの構造とその運用
3. 学会等名 2017年度日本原価計算研究学会 関東部会・関西部会合同部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Asako Kimura, Hiroyuki Suzuki, Norio Sawabe
2. 発表標題 The sustainability management control system on new product development: What is the role of the organizational facade?
3. 学会等名 Kyoto and Bristol International Workshop for qualitative research at Kyoto University
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Asako Kimura, Hiroyuki Suzuki, Norio Sawabe
2. 発表標題 The sustainability management control system on new product development: What is the role of the organizational facade?
3. 学会等名 The 9th APIRA Conference
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	北田 皓嗣	法政大学・経営学部・准教授	
	(KITADA Hirotugu)		
	(90633595)	(32675)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	澤邊 紀生 (SAWABE Norio)		
研究協力者	チョウ チャールズ (CHO Charles)		